

# 平成29年度 学校評価書

総社市立総社小学校  
校長 片岡 正喜 印

## 1 自己評価

### I 評価結果 (別紙参照)

### II 分析・改善方策

#### 1 心の教育の充実

① 道徳教育，人権教育，だれもが行きたくなる学校づくりの取組を充実することにより，児童が気持ちのよいあいさつや思いやりの心を生活の中で実践することができるようにする。

- ・ 毎月，品格教育のテーマに沿って品格教育と道徳教育を関連付けた道徳の授業のポイントや内容項目の扱い，日常生活へのつなぎ方を道徳教育推進教師が提案した。児童の実態に合わせた道徳の授業を各クラスで行ったり，道徳の授業公開を参観日等に行ったりすることにより道徳教育の充実に努めることができた。また，道徳の教科化に向けて道徳教育推進教師が校内研修を行うとともに来年度の年間指導計画を見直すこともできた。

- ・ 6月の「いじめについて考える週間」や11月の「校内人権週間」等を中心に人権標語や人権作文の作成や一人一人を大切にすることの大切さを合い言葉に人権学習等に取り組むことができた。

- ・ ピア・サポートを異学年（兄弟学年や縦割り班），同学年，異校種間（幼稚園，保育園，中学校，高校）での交流の場を意図的・計画的に設けることや縦割り班活動としての清掃や遊び等を通して思いやりの心を育むことができた。

「友達への優しさ」のアンケート結果は，児童91%，保護者94%，教職員91%と基準を達成していた。

- ・ あいさつを毎月一週目の生活目標に掲げ，学級指導を行うとともに本校のあいさつ目標「大きな声で，すすんで，顔を見て」や総社東中学校ブロックきらめきEASTで作成した幟の下に，計画委員会や生活委員会，6年生ボランティアによるあいさつ運動の取組を行った。そして，主体的な活動並びに地域の方に協力をお願いした「あいさつボランティア」の取組により進んであいさつのできる児童が増えてきた。しかし，挨拶のできるときとできないときの波がある。あいさつは，人間関係を築くための基礎基本である。児童にきちんと身に付くように，今後も強化週間を設けたり，SELの充実を図ったりさらに工夫しながら取り組んでいきたい。

「進んであいさつ」のアンケート結果は，児童89%，保護者81%，教職員70%であった。

#### 2 健康・体力づくり

② 健康教育・特別活動を充実することにより，児童が基本的な生活習慣を身に付けるとともに，目標をもって最後まで活動に取り組むことができるようにする。

- ・ 基本的な生活習慣を身に付けることができるよう，睡眠とメディアコントロールの2項目を取り上げ，総社東中学校のテスト週間，夏季・冬季休業と年7回「メディアチェック週間」を設けた。昨年の課題を踏まえ，今年度はメディアのルールづくりに重点を置いて取組を行った。PTA教育講演会にメディアとの上手な関わり方についての講演を行った。また，学校保健委員会だより，保健だより等を発行して保護者の啓発と連携を図った。さらには，児童保健委員会によるメディアのルール作りの呼び掛け，紙芝居等も行った結果，ルール作

りは進んだが、コントロールまではできていない現状である。児童の心身の健康を守るためにも、今後も工夫し家庭との連携を図りながら取り組みたい。

「メディアコントロール」のアンケート結果は、児童74%、保護者72%、教職員94%であった。

- ・ 運動会や学習発表会、児童会活動等全ての教育活動において、児童の実態に応じた目標を持つことができるようにし、活動後は振り返りを行うようにした。児童にクラスや自分の目標に挑戦させ、達成感を得させることができた。

「最後まで頑張る」のアンケート結果は、児童91%、保護者95%、教職員94%であった。

### 3 確かな学力の向上

- ③ 特別支援教育の視点や協同学習を取り入れることにより、児童が基礎学力を身に付けるとともに主体的に学ぶことができるようにする。

- ・ 通常学級における特別支援の視点を取り入れた学習環境や授業づくりに取り組むとともに協同学習を教科の目標を達成するための有効な手段として効果的に取り入れた授業改善により、友達と積極的に関わりながら進んで学習に取り組むことができるようになってきている。
- ・ 今年度も算数科を研究教科とし、全ての教員が研究授業を行うとともに、講師を招聘して実践研究を進めた。また、昨年に引き続き魅力ある授業づくり実践事業による外部講師の指導も受け、思考力、表現力を高める授業づくり、分かる授業づくりに努めた。また、落ち着いた学習環境の要である授業規律、ノート指導についても全職員で共通理解のもとに取り組むことができた。

- ・ 朝学習の時間には基礎学力、総小チャレンジタイムには表現力や思考力を育成する問題に取り組んだ。また、朝学習や総小チャレンジタイムには、学校支援ボランティアと複数で指導に当たるようにした。その結果、4月に行われた3～5年生対象の岡山県学力学習状況調査、6年生対象の全国学力学習状況調査で平均正答率が全国平均を上回り、これまでの取組の成果が見られた。

「学習意欲」のアンケート結果は、児童86%、保護者88%、教職員85%、「授業の分かりやすさ」のアンケート結果は、児童89%、保護者90%、教職員98%と基準を達成していた。

しかし、単元テストの達成基準においては、ハードルが高く成果を上げることができなかつた。今後は基礎基本に観点を絞って達成基準とし、徹底した指導ができるようにしていく。

「学習理解度」のアンケート結果は、教職員48%であった。

- ④ 生活科、社会科、総合的な学習の時間の充実により社会参画力を培う。

- ・ 生活科や社会科、総合的な学習における地域学習の充実や地域の外部講師を招いての本物に出会う授業等の取組を通して、地域を知り、地域を学ぶ学習には一定の成果があったが、社会への参画力については、まだ十分育っているとは言えない状況である。今後の課題である。

### 4 開かれた学校づくり

- ⑤ 各種の便り、ホームページの更新、学校評価、学校公開により、積極的に情報を発信する。

- ・ 校長室便り、学校便り、学年便り、学級便り、図書便り、保健便り、学校保健委員会便り等をタイムリーに発行するとともに、ホームページの更新に努め、学校からの積極的な情報発信に努めてきた。特に校舎改修工事関係は、学校の玄関に工事関係のコーナーを設置するなど保護者、地域への情報提供に努めた。また、学校行事や学習活動を積極的に公開し、保護者や地域の方々の理解と協力を得るよう努めた。

「情報発信」のアンケート結果は、保護者91%、教職員93%と基準を達成した。

⑥ 家庭や地域との連携を深めることにより、児童の安全・安心を確保するとともに、家庭学習や読書の習慣を定着させる。

- ・ 集団登下校を徹底させ、教員による登下校指導をたすきボランティアの方々と協力しながら毎日行い、児童の安全・安心を確保することができた。校舎改築に向け、下校の見守りボランティアの充実に向けて進めている。地域で地域の子ども達を見守る体制づくりを保護者地域の協力をいただきながら進めたい。

「登下校の安全」のアンケート結果は、保護者 87%、教職員 96%で基準を達成した。

- ・ 学級懇談や学年だより等を活用し、家庭学習の意義や家庭学習の取り組み方について保護者に説明し、保護者と連携して家庭学習の習慣化を図ってきた。

また、家庭学習強化週間を設定し、保護者や児童の意識の高揚を図った。その結果、ほとんどの児童が家庭学習に取り組んでいるとともに、家庭学習の時間の目安「学年×10+10」分が達成できている児童が増えている。

「家庭学習」のアンケート結果は、児童 86%、保護者 78%、教職員 95%であった。

- ・ 読書を習慣づけるため、昨年度に引き続き「読書の大切さ」についての学級指導や「アイラブブックウィーク」等の取組を行った。加えて、週末の宿題に読書を加えるなど読書習慣の定着を図った。保護者との連携を図るため新たに家読通信の発行も行った。メディアコントロールにより生み出された時間を読書にあて読書習慣の定着を図った。学校では、落ち着いて読書に取り組んでいるが、家庭では、習い事やゲーム、テレビ視聴等あり時間の確保が難しい現状がある。来年度は学校での読書を充実させる方向で取り組んでいきたい。

「読書週間」のアンケート結果は、児童 73%、保護者 64%、教職員 87%であった。

## 2 学校関係者評価者名

井上 憲司 (有識者)	高北 博文 (PTA会長)
田中 真秀 (有識者)	伊藤 智恵 (PTA副会長)
加藤 隆三 (主任児童委員)	三宅 啓介 (PTA副会長)
宮本 由里子 (地域住民)	

## 3 学校関係者評価

### <学校評価書：学校関係者評価>

#### 1. 心の教育の充実

- ・ 挨拶といったマナーは短期間でできるものではない。良い取組をしているので、自信を持って引き続き続けてほしい。
- ・ いじめについて早急の対処をしていることが素晴らしい。子ども同士のトラブルを学校が把握していることが大切である。いじめに発展する前の問題行動やトラブルを認知することで、保護者との信頼関係も構築できる。
- ・ ピアサポートが根付いたことにより、友達の考えや存在を尊重しながら共に学び学校生活を送る風土が形成されてきた。

#### 2. 健康・体力づくり

- ・ メディアコントロールについての考え方には個人によって差がある。家庭に投げかけてしまうとルール構築が難しい。保護者は学校に、学校は保護者にルールを決めてほしい現状があるので、学校と家庭が話し合っルール構築をしてほしい。
- ・ メディアの危険性について、講演会やお便り等、保護者が勉強する機会をさらに増やしてほしい。

#### 3. 確かな学力の向上

- ・ 総小チャレンジタイムなどを活用した個別指導が充実していることによって、学習習慣が定着しているように見える。

#### 4. 開かれた学校づくり

- ・教職員の熱心で献身的な取り組みに敬意を表するものの、さらに教職員の心身の健康の保持・増進に努めてほしい。
- ・学校ボランティアの方々に積極的に学校に関わってもらうことはとても良いことである。
- ・校舎の建て替えといった通常とは異なる状況の中で、不安になる児童・保護者もいるので、学校からの情報発信を引き続き行ってほしい。

#### 5. 設置者等による学校への支援

- ・児童が毎日楽しく安心して学校に行けるのは先生方の指導の成果である。先生方の健康の維持、全ての児童が一人残らず学習に取り組む環境づくりの一環として、教諭、支援員等の人的配置等の支援をお願いしたい。

#### 4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

本年度の成果と課題、学校関係者評価等を踏まえて、校舎改築工事の進行する環境下での学校経営目標を目指す。

- 1 心の教育の充実
- 2 健康・体力づくり
- 3 確かな学力の向上
- 4 開かれた学校づくり
- 5 校舎改築工事